

## 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う「命の選別」への声明

まず、新型コロナウイルスの感染拡大により、亡くなられた方々に心からお悔やみ申し上げます。また、療養中の方々に关しては一日も早いご快癒をお祈り申し上げます。そして、医療・看護職、介護職をはじめ、生活を守って下さっている皆様に心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中、国内外で気管挿管型の人工呼吸器の不足が懸念されております。そうしたなか、命の選別が行われかねない状況が報道されております（参考①、②）。また、こうした海外の現状をもとに、医師、看護師、倫理学者、弁護士らからなる生命・医療倫理研究会の有志が、感染爆発時の人工呼吸器の「再配分（人工呼吸器を装着している患者からの取り外しと新たな患者への装着）」の容認などを提言しています（参考③）。

約18年前から、喉を切り開く手術を経て、気管挿管型の人工呼吸器を使用して生きている難病当事者として、命の選別が行われることに、強い懸念を示します。

感染症の感染が広がった現状でなくても、難病や障害のある人たちは、脆弱な医療・福祉体制から、「生きる」という選択をできない実態があります。私が発症したALSという病気も、人工呼吸器をつけなければいずれ死に至りますが、患者のうち7割が人工呼吸器を装着せずに亡くなるとされています。高齢者や難病患者の方々が人工呼吸器を若者などに譲ることを「正しい」とする風潮は、「生産性のない人には装着すべきではない」という、障害者差別を理論的に正当化する優生思想につながりかねません。今、まず検討されるべきことは、「誰に呼吸器を付けるのか」という判断ではなく、必要な人に届けられる体制を整備することです。

政府も緊急経済対策の中で、人工呼吸器の増産や輸出拡大のための予算を計上するなど取り組みを進めています（参考④）が、必要な医療が必要な人に届く政策に全力を尽くして頂きたいと存じます。また同時に、集中治療室などで働く医療職、看護職の方々の人材確保や維持、治療・労働環境の整備、心身へのサポートを徹底して行うべきと考えます。

国民の皆様一人一人におかれましては、弱い立場におかれる人が「生きたい」と言える社会に、命の価値を選別しない、つまり命の価値に順列を付けない社会への理解を深めて下さいますよう、心よりお願い申し上げます。「命の価値は横一列」と、私は考えています。どなたでも、その価値は同一です。

2020年4月  
参议院議員 船後靖彦

参考①

父の人工呼吸器、電話で「若者に回す」 命の選別に絶望（朝日新聞デジタル 2020年4月5日）

[https://www.asahi.com/articles/photo/AS20200404002661.html?jumpUrl=http%253A%252F%252Fdigital.asahi.com%252Farticles%252Fphoto%252FAS20200404002661.html%253F\\_requesturl%253Darticles%252Fphoto%252FAS20200404002661.html](https://www.asahi.com/articles/photo/AS20200404002661.html?jumpUrl=http%253A%252F%252Fdigital.asahi.com%252Farticles%252Fphoto%252FAS20200404002661.html%253F_requesturl%253Darticles%252Fphoto%252FAS20200404002661.html)

参考②

ダウン症、自閉症だとコロナ治療で後回しに？ 人工呼吸器不足で、米国アラバマ州が衝撃のガイドライン（FINDERS 2020年4月7日）

<https://finders.me/articles.php?id=1838>

参考③

生命・医療倫理研究会「COVID-19の感染爆発時における人工呼吸器の配分を判断するプロセスについての提言」

[http://square.umin.ac.jp/biomedicalethics/activities/ventilator\\_allocation.html](http://square.umin.ac.jp/biomedicalethics/activities/ventilator_allocation.html)

参考④

厚生労働省令和2年度補正予算案で人工呼吸器の確保に265億円を計上

(<https://www.mhlw.go.jp/wp/yosan/yosan/20hosei/>)

経済産業省令和2年度補正予算案でアビガン（抗インフルエンザウイルス薬）・人工呼吸器等生産のための設備整備事業に87・7億円を計上

([https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan\\_fy2020/hosei/](https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2020/hosei/))